

## スペインで祖国憂える友人

主婦

(広島県 73)

日まで広島県人として一生懸命  
平和を訴えてきたのに、もう出  
来なくなったと結んであった。

9月末、スペインに40年住ん  
でいる高校の同級生から手紙が  
届いた。先日、隣に住んでいる  
スペイン人が「日本の国会で殴  
り合いがあった」と知らせてき  
たという。彼女はまだそのニュ  
ースを知らなかったが、いやな  
予感がしたそうだ。憲法9条や  
集団的自衛権の問題について意  
見が食い違ったのだろうと。

参院特別委での採決時に、つ  
かみ合いの混乱もあった安全保  
障関連法。手紙からは安保法に  
対する彼女の怒りを感じた。先  
の大戦後、二度と戦争しないと  
いう憲法を持つことに、日本人  
として誇らしく思ってきた。今

世界中にこのニュースが流れ  
てしまったことについて、日本  
国民として恥ずかしい。さら  
に、今月1日には防衛装備庁が  
発足した。自衛隊が持つ武器の  
開発や購入、民間企業による武  
器輸出の窓口役までも一元的に  
担うという。そのうち成長戦略  
に武器輸出を位置づけるのでは  
ないだろうか。近い将来、日本  
製の武器が紛争地で使われる危  
険性が出てきた。

日本は平和国家と言えなくな  
るだろう。祖国を憂える友人  
に、どう返事を書くべきか困惑  
している。